

令和4年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業による研究

「老人保健健康増進等事業BPSDの軽減を目的とした認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究」

BPSDを予防・軽減するための要件について検討するための調査を実施

目的

本研究では①令和3年度事業で検討されたBPSD予防ケアのチェックリスト(以下、委員会リスト)の実用性を検証する、②「BPSDの客観的評価」「全人的アセスメント」「PDCAサイクルで繰り返すチームアプローチ」の3つの要素に準じたケアを行う介入群と通常ケアを行う対照群のクラスターランダム化比較試験を実施し、その効果検証を行う、の2点を目的とした。以降①を研究事業A、②を研究事業Bとする。

概要

主な事業内容

- 研究事業A: 作業部会を設置し、令和3年度事業で検討された委員会リスト(「その人らしい暮らし」について本人に聞き取る7項目)に基づいたケアの展開を求め、その結果をもとに、BPSD予防に寄与したであろうケアについてインタビューを実施した。さらに、以上をふまえて、委員会リストの実用性の検証を行った。
- 研究事業B: 本研究に協力いただいた全国の施設・事業所を利用する認知症の人を対象に、「BPSDの客観的評価」「全人的アセスメント」「Plan-Do-Check-Act (PDCA) サイクルで繰り返すチームアプローチ」の3つの要素に準じたケアを行う介入群と通常ケアを行う対照群のクラスターランダム化比較試験を実施した。

主な事業結果・成果

研究事業A BPSDの予防に資するケアの検討

作業部会では、4回の検討を行い、同時に作業部会メンバーの所属する4施設で8事例に対し、委員会リストに基づいた「尊厳を保持し個性を重視したその人らしい暮らしを支えるケア」を行った。取り組みの結果、5事例でBPSD重症度総得点が改善し、8事例で予防の標的としたBPSD項目の点数が維持または、改善した。なお、予防の標的としたBPSD項目のベースラインが0点で、取り組み後も0点を維持できたのは3事例であった。Quality of life (QOL) については、7事例で維持・改善した。各事例に共通したBPSD予防のための対応としては「体調を整える」「安心につながる環境調整を行う」「安心につながるかわり方を心掛ける」「自由な暮らしを送る」「役割を持ってもらう」「趣味活動を行ってもらう」「身体活動量を確保する」「職員との関係構築する」「家族との関係を再構築する」等があげた。

研究事業B BPSDの軽減に資するケア

介入群は対照群に比較し、Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia Questionnaire 25 items version (BPSD25Q) 得点の変化量が有意に低かった($F=5.82$, $p=0.018$)。介入群は介入前後でBPSD25Q得点が有意に低下し($p<0.001$)、介入後は対照群に比較し、BPSD25Qの得点が有意に低かった($p=0.003$)。介入群は対照群に比較し、The short version of QOL questionnaire for Dementia (short QOL-D) 得点の変化量が有意に高かった($F=5.52$, $p=0.021$)。介入群は介入前後でshort QOL-D得点が有意に増加した($p=0.003$) (図参照)。介護職員にとって、BPSD評価やPDCAサイクルによるチームアプローチは日常のケアやBPSDの軽減・再発防止に役立つと思う割合は90%以上であった。

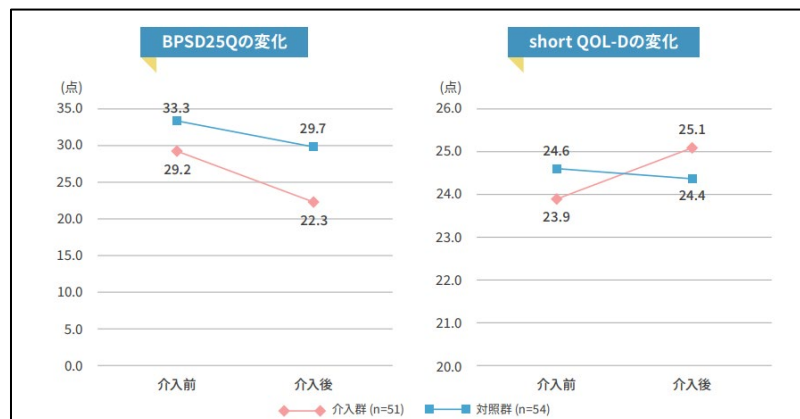


図 BPSD25Qおよびshort QOL-Dの変化

成果物 報告書とともに、成果チラシや実践事例集(冊子)を作成し、認知症介護情報ネットワーク(DCnet)上に公開した。